

SGH 通信

高知県立高知西高等学校

〒780-8052 高知県高知市鴨部 2 丁目 5 番 70 号

TEL 088-844-1221 / FAX 088-844-4823

H29. No.4 2017.8.25

URL: <http://www.kochinet.ed.jp/nishi-h/>

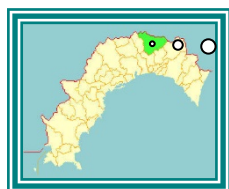
グローバル探究Ⅰ（1 年）の取組

第 7 回グローバル探究Ⅰ 講演「探究とは何か」～大豊町の 6 次産業を例に～

6 月 7 日（水）の第 7 回グローバル探究Ⅰでは、高知大学副学長 受田浩之先生をお招きし「探究とは何か」について、講演をしていただきました。

【授業のねらい】

- ・グローバル探究の授業今後どのような探究活動をするのかについて、理解を深める。
- ・生徒が具体的にイメージしにくい「六次産業」について、大豊町の事例から学ぶ。



大豊町

講演では、大豊町で生産・販売している「碁石茶」での「六次産業」を例に上げ、六次産業やグローバル戦略についてお話いただき、これから高知県の地域創生案を探究していく生徒たちに、探究の考え方や方向性等をお話してくださいました。

【講演の内容】

大豊町は、町民の平均年齢約 64 歳で、人口減少と高齢化が進み、限界集落の一つに数えられるようになった。大豊町では、昔ながらの伝統製法を守って生産される、日本で唯一の完全発酵茶である「碁石茶」の生産・加工・流通・販売を一体化する「六次産業」が行われている。碁石茶には、抗酸化力、インフルエンザ感染予防効果、高脂血症や動脈硬化抑制効果があり、また、赤ワインとほぼ同じような味のバランスをもつことが分かっている。市場では 1g = 1 円と考え、それ以下の物は価格が安く、それ以上は高いと考えられているが、碁石茶は 1g = 60 円と、大変高額で販売し、売れている。

産学官との連携も図っており、農水省外郭団体（財）食品産業センターが碁石茶を、「本場の本物」と認定し、ブランド化も図られている。2013 年には、フランスの食の祭典に名誉招待された。碁石茶と同じ発酵茶を生産しているタイのチェンマイ県メーカンボン村との姉妹都市締結に向けた取組も進んでいる。碁石茶の六次産業によって大豊町は雇用を生み、国際交流を行い、地方からグローバル化を発信している。タイでは政府主導のもとオートップ運動（One Town One Product 日本の一村一品運動と同じ）が盛んで、その地域におけるかけがえのないモノによる産業化を行い、多種多様な商品が生産されるようになった。碁石茶はまさにオートップだ。キーワードとして、



「いつでも どこでも だれにでも」な商品ではなく

「今だけ ここだけ あなただけ」の商品を創造する

をあげ、誰をターゲットにするのか、A 級や S 級という特別なものを作ることを強調されていました。ローカルから、グローバルへ変わるきっかけは何があるかわからない。2020 年の東京オリンピックでは、農産物の国際基準 GAP（Good Agricultural Practice: 農業生産工程管理）の認証が得られないと選手村では提供できない。食のグローバル化はすぐそこにまで来ていると紹介がありました。

第8回グローバル探究Ⅰ 「職業人講話」

6月14日（水）の第8回グローバル探究Ⅰでは、10名の企業人の方を講師としてお招きし、4つのサブテーマごとに8クラスに分かれて講演をしていただきました。



【授業のねらい】

- 講話を聴き、サブテーマに関する知識・理解を深める
- 「働くことは付加価値を生み出すことである」という社会の大原則が、いかに大切に気付く
- 的確かつ効果的な質問を、グループで協議して一つに絞ることを通じて、仲間に導き、説得できるような適切な表現力を身につける
- 聞くだけでなく、「質問することを前提に講義を聴く」ことの大切さを理解する

○職業人講話でお話をして頂いた講師の方々より、感想をいただきました。

【株式会社土佐山田ショッピングセンター 代表取締役 石川 靖 様】



今回の講話では弊社の取り組みの中でも特に伝えたかったことは、「地域を育む商い」ということです。今年になって香美市香北町と物部町からスーパーがなくなったことで、私はある方に「スーパーやコンビニは地域にストローをぶっ刺して東京にお金をおくる装置。人口が増えていた頃、効率的な消費を優先した。そして地域にもともとあった生業を淘汰してしまった。

その結果、地域で働く場がなくなり、みんな都会に仕事を求めた。そして今、地域から人がいなくなり、スーパーが地域から撤退しはじめたんだ」と言われたとき反論できませんでした。そのとおりだったからです。会社を経営するうえで効率追求は重要ですが、効率優先で地域を壊しては自分の首をしめる結果をもたらします。いかにして地域を育みながら効率的な運営をしていくのが大切です。

生徒の皆さんもこれから社会の一員になっていく中で、組織に入りその組織の色に染まっていくと思いますが、組織に染まりつつも「世界は決して一色に染まらない」、だから自分しかできない仕事の持ち味をもつ、敬意を込めて「変態」といわれる人材に成長することを期待します。そして理想の働き方として「遊ぶように働く」を実践してほしいです。

【株式会社 グラディア 代表 森本 麻紀 様】

今回の講話のテーマ「食と観光」において、弊社は、香港にも店舗を構えており、日本の中の高知県と、アジアの中でも競争の激しい香港という地域でビジネスをしているからこそ見えてきたものを重点的にお話しさせていただきました。若い頃は都会に憧れますが、私たちの生まれ育った高知の町にも、近年海外からたくさんの観光客が来られており、まだまだ私たちにできる事はたくさんある。そういった事も踏まえたうえで、これからグローバルな視野で将来を考えてもらえるきっかけになっていけば有難いです。



なかなか、ビジネスという視点で高校生に伝えるということが私も初めてだったもので、私自身、納得のいく話はできませんでしたが、機会があればまたお話しさせていただきたいと思います。

【高知県産業振興センター 技術統括 渡部 正二 様】

今回の講話では、私のキャリアとして、Amazon での Net 販売の経験がありましたので、それをベースに” Net ビジネスの現状”を中心に流通の話をさせて頂きました。それに加えて SONY での商品企画の経験を説明させて頂きました。講演の中で感じたのは、生徒の皆さんの真っすぐ前を向いた輝いた目と、私から多くを学ぼうとするその姿勢です。長い間、社会人をやっていますが、ここまで純粋な学ぶ姿勢を感じたことはありません。それだけ、西高生徒の皆さんが素晴らしいかと思います。



私が今回伝えたかったことは、「Net 社会の現状を把握して、それにどう向き合っていくのか?」、「商品（物事）に興味をもち、自分で色々考え、企画していく行動力」です。できる事なら、学んだそれらの知識や行動を将来、高知県の地方創生につなげてくれたら、こんなうれしい事はありません。今回、こんなとても素敵なチャンスを与えてくださった高知西高校の皆様に御礼申し上げます。ありがとうございました。

【株式会社アクティブラーニング 副社長 得能 絵理子 様】

今回の講話のテーマは「六次産業」がテーマということで、「にっぽんの宝物」という高知県で始まった六次産業化の取組についてお話をさせていただきました。キーワードは他者とのコラボレーション（協力）と能動性。中でも私が特に皆さんに伝えたい点は、「あなたの作り出せる価値は何か?」という点です。コラボレーションするためには、自分に魅力が必要です。その魅力、つまり価値を作るために、『小さな一歩から始めてほしい、いや、むしろ小さな一歩からでいいんだ』というお話をさせていただきました。



是非この夏休みに、なにがしかの一歩をみなさんが踏み出してくれることを期待します。

【株式会社スイーツ 代表取締役社長 春田 聖史 様】



今回の講習テーマ「生産流通/6 次産業化」について、「田野屋塩二郎」代表の佐藤京二郎さんとお話しさせていただきましたが、私達の伝えたいことは以下の3つです。

- ・生産者とのリスペクトと信頼関係の上に、地域のヒット商品は生まれる。
- ・本気のものづくりが奇跡のような産品を生み出す。

・心血を注いだ産品は、自分の子供のようなもの（どこに対しても媚びて商売すべきでは無い）です。

塩二郎さんの最後のことば「99%の努力と1%のセンス」で、皆さんが未来の夢を掴みとってくれると嬉しいです。この度はありがとうございました。



【田野屋塩二郎 代表 佐藤 京二郎 様】

生徒さんに伝えたい事は、次の4つです。

- ・常に目標は高く設定すること
- ・まず行動すること（考える前に）
- ・好きな仕事につく事
- ・楽しく仕事をする事

【株式会社わらびの 代表取締役 畠中 智子 様】



今回の講話のテーマは「食と観光」ということで、昨年、30 年ぶりに復刻した本「土佐の味ふるさとの台所」にまつわるプロジェクトを紹介しました。「地域づくりの種は食にあり」一冊の本が豊かな発想につながり、アイデアを生み、行動につながる。そして、その営みが郷土の味を未来につなげることとなります。食べる、作る、採る、買うなど、食にまつわるアイテムの足し算で楽しい観光を作ろう！って私の目論見、西高生たちには伝わったかな？